

Management Information

連載 会計実務概論「病医院会計のすべて」**第2部 病院会計制度概論****第12章 財務諸表の分析 財務諸表の見方****12-2 財務諸表分析の観点****12-2-4 成長性の分析**

成長性の分析は、病院の成長の状況を把握し、また今後の見通しを予測するための分析である。この場合、問題となるのは病院の成長とは何か、それはどのような指標によって把握するのか、ということである。一般には成長を測る尺度として医業収益、付加価値、総資産、従事者数、利益などが用いられる。そのなかで最良の尺度は付加価値といえるであろう。というのは、付加価値が病院の実質的運営努力の大きさを示す数値だからである。

また将来における成長の可能性については、これを財務諸表の数値のみで判断するのでは一般的に困難をともなうことがある。たとえば、付加価値以外にも過去における医業収益、総資産、利益などの推移の状態を詳細に観察することで成長の一端を理解することができる。こうした指標が順調に相関して増加している場合、今後の成長も順調に推移する可能性が高いとか、医業収益の増加に対して付加価値が高い場合には、高付加価値的な運営をしているという判断が得られるであろう。

また、病院の成長を支える基礎の 1 つは最新医療機器などに対しての設備投資への投下である。したがって、その状況を判断するような財務諸表項目の伸び具合などをチェックすることも成長性を判断するうえで重要な情報となるであろう。

<続く>

(井出健二郎著「病医院会計のすべて」日本医療企画より)

診療報酬改定2026 その4 世代内、世代間の公平の更なる確保による 全世代型社会保障の構築の推進

少子高齢化に代表される人口構造の変化は、支えられる側と支える側の考え方が大きく異なり、給付と負担のバランスも世代間でアンバランスな状態にあります。このような負担構造の見直しの必要性に対し 2026 年度の診療報酬改定で国民皆保険制度の継続のためにも大きな見直しが必要ではないかとの意見を踏まえ、議論されています。

□高齢者医療制度の概況



□医療費の自己負担額



高齢者の健康状態の変化や所得、経済環境の等の変化を踏まえつつ、世代間の公平な負担の観点などから高齢者の負担割合を見直し(1割負担から3割負担等)、また、現役並み所得の判断基準が平成 18 年以降見直されていないことから、この点も見直しが必要ではないかとの意見が出ています。

※図表の出典は「世代内、世代間の公平の更なる確保による全世代型社会保障の構築の推進(厚生労働省)」となります。